

(英語版)

(アラビア語版)

(目次)

見果てぬ平和 ― 中東の戦後七十五年 (七十一)

第3章 アラーの恵み―石油ブームの到来 (八)

七十一 OPEC結成(四―四)



石油産業の国有化はその後世界の潮流となるが、その背景には天然資源についての二度の国連決議があった。最初の決議は1962年の国連総会における「天然の富と資源に対する恒久主権」の決議である。これは1966年の決議によってさらに強固なものとなった。このとき(一)資源は本来その所在国に帰する、(二)資源の開発と販売は資源所在国が自力で行うことが望ましい、(三)資源開発に従事する外資は受入国のコントロールに服さなければならぬ、ことが決議された。天然資源の国有化の正当性をはっきりと認めたのである。

国連決議に勇気を得たOPECは1970年代に入るや怒濤の進撃を開始するのである。それはセブンスターズを恐れさせただけでなく、1973年の第四次中東戦争で世界中にオイルショックを引き起こし石油消費国を震撼させたのである。

(続く)

荒葉 一也

E-mail: [Arehakazuyal@gmail.com](mailto:Arehakazuyal@gmail.com)